

地域の実情と課題

- ・本市では、市内に本社機能を置く9割以上の企業が中小企業であり、これまで規模的にも企業単体で女性活躍の取組を行うことが困難な状況にあった。
- ・上記状況を踏まえ、まずは、事業者及び各種団体のネットワーク構築を図るとともに、女性活躍の啓発につながるイベントを開催するなど、事業者や市民の意識啓発を図った。
- ・また、庁内の動きとして、平成28年度に女性自身の声を施策につなげることを目的に「あかし女性の活躍推進会議」を設置。令和3年度には、庁内横断的に「ジェンダー平等プロジェクトチーム」を設置し、同チームの取組や地域のニーズ、社会情勢等を踏まえた施策を展開している。

事業の特徴

- ・女性活躍の推進を目的に、産業・金融・医療・教育・子育てなど分野の枠組みを超えたネットワーク組織である「あかし女性応援ねっ」とによるセミナーの開催を通じ、各分野における情報共有・意見交換を行うとともに、女性の活躍に係る基盤整備や実効性の高い施策への展開を目指す。

事業の効果

- ・関係団体(ハローワーク明石など)と連携し、「セミナー&異業種交流会」と、「10周年記念フォーラム(講演会・パネルディスカッション・交流タイム)」の開催
- ・「あかし女性応援ねっ」の加入者数増加
【事業連携団体数】 4団体
【個人加入者数】 123名 【団体加入数】 69団体

目的・目標

- ・「あかし女性応援ねっ」の加入者数を増やすことで、会員同士のネットワークを広げ、深めることを目的とする。

| | 目標・KPI | 目標 | 実績 | 達成度 |
|-------|----------------|------------------|------|------|
| 事業目標 | 会員相互による事業連携団体数 | 3団体 (アウトカム) | 4団体 | 達成 |
| 事業KPI | 女性応援ねっ加入者数 | 120名 (アウトプット) | 123名 | 概ね達成 |
| | 女性応援ねっ加入団体数 | 70団体 (アウトプット) | 69団体 | |

連携団体

- ・ハローワーク明石
- ・病院
- ・建設企業
- ・小売企業

今後の課題

- ・会員以外の多様な方に参加してもらいやすい内容や組織にする必要がある。
- ・引き続き遠方の方も参加できる環境(オンライン配信やオンデマンド配信など)を整える
- ・今後さらに新たな会員を獲得し、ネットワーク内の連携強化や女性活躍推進に向けた環境整備をより一層促進する必要がある。

事業の概要

関係団体(ハローワーク明石など)と連携し、「セミナー&異業種交流会」と、「10周年記念フォーラム(講演会・パネルディスカッション・交流タイム)」を開催した。

開催報告

あかし女性応援ねっと 10周年記念事業イベント
2025年度 会員総会・セミナー&交流会

- 2025年7月5日(土)
- 複合型交流拠点 ウィズあかしフリースペース
- 会員総会
13:00~ 2025年度 会員総会
- セミナー&交流会
13:30~ セミナー
「暮らしを“共につくる”という選択
~これからの家事と家族の話~」
- 14:55~ 交流会
- 参加者
会員総会 会場20名、オンライン4名
セミナー 会場28名、オンライン5名

総合司会 田邊 美代子
あかし女性応援ねっと 運営委員

会員総会 議長 崎野 圭子
あかし女性応援ねっと 代表

議案審議では、2024年度の事業報告および収支決算について審議し、可決されました。
報告事項では、2025年度の事業計画および収支予算、運営委員の交代、会員の加入状況について報告がありました。
あかし女性応援ねっとは、今年度、発足から10周年を迎えます。事業計画では、本日のセミナーを含めた10周年記念事業について報告しました。

セミナー

「暮らしを“共につくる”という選択
~これからの家事と家族の話~」



講師 三木 ともありさん
NPO法人tadaima!代表
家事シェア研究家
インテリアコーディネーター

「家事は面倒だ」「家事が多くて、自分の時間がない」そんな悩みや課題の解決に向けて、ヒントを得られたセミナーとなりました。
家事の担い手不足による生活の「ゆとり」のなさを多くの人を感じている中、働き方を変えなければ、家事に費やす時間が足りない現状があります。これからは、「家族と暮らしを営む権利」を取り戻す戦いが必要です。

「仕事が忙しから」と、家事をしないなんてもったいない!!なぜなら、家事をするということは、自分自身や家族をケアし、小さな達成感をたくさん感じられ、自己効力感を高めることにつながるからです。

自分の暮らしを見つめ直し、家事を負担でなく、自分を整える楽しさと捉え、完璧よりも心地よさを目指すことの大切さに気づかせてくれた今回のセミナーは、「家事」の捉え方や考え方が変わるきっかけになりました。

交流会

セミナー参加者による交流会を開催しました。講師の三木さんも参加いただき、セミナーでは聞けなかったことを質問したり、各々の家事について共有したり、日頃お話しすることがない分野の方と交流ができる機会となりました。



開会挨拶 森 一美
あかし女性応援ねっと 代表

市長挨拶 丸谷 聡子
明石市長

交流会進行 柏木 登起
あかし女性応援ねっと 事務局長

閉会挨拶 甲谷 智己
あかし女性応援ねっと 副代表

開催報告

あかし女性応援ねっと 設立10周年記念フォーラム

ジェンダー平等の『これまで』と『これから』

- 2026年2月22日(日)
- あかし市民広場(パピオスあかし2階)
- 13:30~ 開会
- 【第1部】基調講演
「ジェンダー平等の現在地」
- 14:45~ 【第2部】パネルディスカッション
「あかしのジェンダー ~“あたりまえ”を見つめ直す~」
- 15:40~ 【第3部】交流タイム
「みんなで語ろう!あかしのジェンダー平等のこれから」

総合司会

あかし女性応援ねっと
事務局長 柏木 登起



■参加者 85人

開会あいさつ

設立から10年、女性活躍推進といってもどこに焦点を当てて活動していくべきか、試行錯誤の10年であったと思います。多方面からのご理解とご支援を賜り、この日を迎えられたことを嬉しく思い、みなさまのお力添えに感謝申し上げます。
本日のフォーラムは、これまでの10年を振り返り、また、次につながる10年をどのように目指していくのかをみなさまと一緒に考えていきたいと思っております。みなさまの忌憚ないご意見やご感想を聞かせていただき、よい時間になることを願っております。

あかし女性応援ねっと
代表 崎野 圭子・森 一美



GUEST 丸谷 聡子 明石市長

設立10周年おめでとうございます。この10年間、あかし女性応援ねっとは、勉強会や講演会などを積み重ねてこられました。女性だけではなく男性もいろんな変化があった10年でしたが、このような活動があったことで頑張ってくれた方もいらしたのではないのでしょうか。
明石市では、「あかしジェンダー平等の推進に関する条例」を策定し、学校でのジェンダー教育や男性の家事・育児参画などに取り組んでいます。市役所では、男性の育児休暇取得を応援し、今後は「みらい人財育成プロジェクト」の基本方針をつくり、新たな仕組みも含めて取り組んでいくところです。あかし女性応援ねっとのこれからの10年の活動が、ますますこの明石市にとっても素晴らしいものになるよう応援してまいります。



第1部 基調講演 ジェンダー平等の現在地

講師 大崎 麻子さん
特定非営利活動法人Gender Action Platform 理事

国際的にご活躍されているジェンダー・スペシャリストの大崎さんにジェンダー平等をめぐる世界の潮流をお示しいただきながら、ジェンダー平等の日本の現在地についてや、これからの「明石のジェンダー」を考えるヒントについてお話しいただきます。

「ジェンダー平等」はSDGsの5つめの目標として設定されていますが、17すべての目標において、ジェンダー視点のシステマティックな主流化(男女別データの収集、ジェンダー分析、意思決定の場の男女比の均衡)が必要とされています。日本では2022年以降、大企業に対して男女間賃金格差や女性管理職比率、男性育児取得率などの情報開示が義務化されたことを契機に、構造的課題を可視化・分析する取組がようやく進み始めました。

国は、地方の人口減少の要因として若年女性の流出を挙げています。豊岡市、福岡市、松山市では、自治体や女性団体を中心となり、職場・家庭・地域・学校などに存在するさまざまな無意識のバイアスが、若年女性の地域外への流出や女性管理職につながっていることを明らかにし、その改善に向けた取り組みを進めています。ジェンダー意識の形成には、日々の働き方や制度の在り方が深く関わっているため、社会や組織に内在するバイアスを可視化し、その背景を分析した上で、次の一手をどう進めていくかを考えていくことが大切です。

